

韓国行 (4)

(最終回)

一日韓シIM交流会に参加して

五月十九日の朝の閉会礼拝を水原アカデミーハウスでの日韓シIM(都市産業伝道)協議会を終り、すぐバスでソウル鐘路五街のキリスト教会館に戻った。

十九日の午後には帰るメンバーもいたが、私は同行の土肥隆一氏(御影クリスチャンユニースセンター)とその日はソウルの市内見物をし、翌二の日に帰ることにした。キリスト教会館の職員に案内してもらって、ソウルの国立博物館等をかなり不向きであつたが見学した。日本では写真でしかお目にかかれないうようなものを実際に見るこゝろができたが、この教時間が今回の韓国行で唯一の破光であつた。

三階ごろに破光を終えて一層旅館に戻つたが、まだ時間があつたので土肥氏と二人で平抄市場にでかけることにした。平抄市場はキリスト教会館から南へ歩いて10分ぐらいのところにあつた。私の平抄市場のイメージは、露店商や小さな平屋の商店が通りに面してがらやがらとあり、そのうち通りにはミンミンと教員おいた小さな工場があるというところであつた。しかし

実際は大分らがう感じであつた。

平抄市場というのは3階ないし4階建のビルが二つならんだもので、その二つは2階につけられた渡り廊下で結ばれている。1階の階は主に商店でセーター、ワイシャツ等衣料品を売つてゐる。そこはちやうど神戸の三宮や元町のガード下の商店街のやうな感じである。風とおしは豊く、私が行つたのは五月半の夕々し暑くて、平抄市場と端から端まで通り抜けるとほこりっぽいためにどがガラガラに鳴り、うがいをしたくはつた。

よく平抄市場の写眞として日本に紹介されてゐる工場は3階にあつた。全乗老氏が疾身自殺したところには、べれば仲介条件は良くはつたと言われているが、3階の工場は写眞を見たそのままであつた。

3階に上るとミンミンの音がゴーと鳴りつづけで、4、50人ぐらいの労働者をもつミンミン工場が赤らりと並んでおり、その軒下に一軒ぐらゐの割合でミンミンの修理屋があつた。夏には大変な暑さであろうと思われ、風とおしの良くない部屋に、かなりつめてミンミンが置いてあり、所狭しと布等原料が積み、天床から糸がミンミンにつながつてゐる。より多くのミンミンを置くためにはとんとこの部屋へ工場を半分ぐらゐの面積に新たに床をつくり、3階半としてゐる。その郎

1978.11.26

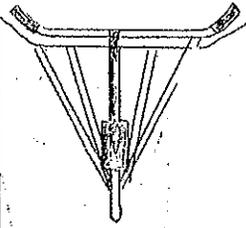
分は人回し背又よりも低い。現在は果止されてはいるが以前はそのろ階半入ところに労働者が待泊りしていたさうだ。

平和市場メーブルには荷物運搬用のエレベーターもない。そのためチゲツクンへチゲというしよいごで荷物を運ぶ江車をみるくが多く見られた。チゲツクニは平和市場以外でも多くみうけたが、びっくりするほど大きい荷物をチゲにのせて運ぶのである。

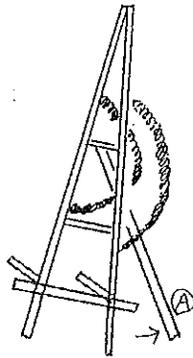
平和市場でも原料をろ階に、製品を一階にというように差な階段を上り下りしていた。チゲはオー図のようなもの(不製)であるが、荷物を積みおろしのため地面におくとときには④を出して固定するのである。

チゲツクニに刺することと想うが、ソウルの町には自転車が多い。その自転車も人回が一入のるためというよりも、荷物をのせるためのものである。日本では木屋さんが水を運ぶのには使った自転車のような、岩盤なものであるが、少し

く(二四) 正のした自転車



メー図 ヘチゲ



ちがうところがある。ひとつは前のハンドルのところに、ハンドルの上に物をおいてもいいようにオニ図のように4x8本のパイプを補強するのである。もうひとつはちがうところは、うしろの荷台に大きな荷物を積み重ねられるように長い棒を立ててあるということである。その棒はチゲの④がないもののような形になっている。現場を見たわけではないが、おそらく、チゲツクニが運んできたものを自転車の運び屋が自転車に移しかえて運ぶのであろう。自転車に大きな荷物を積み上げて運ぶのいるのや、荷物が大きすぎて乗れないので荷車のようにして押しているのをよく見かけた。チゲツクニも自転車の運び屋も△のウオンとかいうように受けおって運んでいるのだろうと思われる。

X X

十七日の夜はさそわれてYMCAホテルの近くにある酒屋へ行った。その店はうら輝りにあるひなびた店で、土間に切り株のような木をならべているとし、中二階ではカマグムス生海産を削がしてくれろという店だった。そこで飲んだ本場のマッコリの味は、また格別だった。その日はいい調子で格闘にもどり、ぐっすり寝た。

次の日の朝九時ごろ、出かける準備をしているとキリスト教会館から電話があった。下用車があるのです

く来てくれ」というのである。岡があったのかと思いきりスト教会館に行ってみると驚いたことに前日、日本に帰ったのはその二人がいるのである。事情を聞いてみると前日金浦空港で静しくホテイーチエックをされ公然と岡も写真をとられた上に、フィルム、ピラ、メモ等を二とごとく押収されたという。反政府的な韓国IIMのビラ等を持ち出さうとした事、被疑ビラを入手しながら会議に参加したことが緊急措置令等に違反するとして押収された後四一五時間拘束されたのである。そのたまたまの日の飛行機はくはくだったのでソウルホテルに戻ってきたというのである。

このような事態になつてゐることを全く知らずに、私は市内観光をしマッコリを飲んでゐたということになる。

前日帰国できなかつた二人と私と土肥氏は、12時ごろキリスト教会館を出て金浦空港に向つた。前日のことであつたから、会館の前から当局の車がすぐ、私たちのタクシーを追いかけた。それは尾行というよりいやがらせて、途中の高速道路で時には我々のタクシーのすぐ後を追ひこしたりするのである。まさに抜きつ抜かれつで金浦空港についた。空港では、昨日写された写真が空港駐留に配布された様子で、我々四人が偏ると恥辱がヒソヒソ話をしてゐた。また四人が

待合室メソフアーに座るとすぐ横に車を追つてきた人が座るといふ奥右であつた。

私の飛行機が一番早かつたので私が先に荷物検査をうけたが、係官のうしろには車を付けてきた人が立ち白い荷物の検査をした。前日のことがあつたので文書等はすべておいてきたが、係官は単に丁寧にトランクの中を調べた。一度調べてうしろをふり向くと、当局の人が「この人は……底まで……し……」というので、又下着等を全部トランクから出し、タオルは中に紙が入つていないか何度もにきつてみるという風だつた。前後の日本人観光客とは比べものにならないくらい長い時間がたつて、ようやくパスした。

そして日本に帰つてきた。
一週間足らぬの韓国行、はじめてにしては刺戟が多かつた韓国行だつたが、百原は一見にしかつた。軍によい評価をすることができた。
(終り・飛田研一)

(23ページから続く。)

順位	姓名
236	奈奈
237	奈奈
238	奈奈
239	奈奈
240	奈奈
241	奈奈
242	奈奈
243	奈奈
244	奈奈
245	奈奈
246	奈奈
247	奈奈
248	奈奈
249	奈奈

(参考 文献)
善生 永助著「朝鮮の姓」
韓東遠著「韓国の姓」
結婚 奈奈、
一九七八年二月二十三日付
東亜日報 他